

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200116		
法人名	有限会社 ケアソリューション		
事業所名	グループホーム すずらんの家		
所在地	恵庭市黄金北3丁目12-6		
自己評価作成日	平成25年 2月 24日	評価結果市町村受理日	平成25年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0171200116-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25年 3月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すずらんの家は平成15年に開設され今年で10年目を迎える、民家型の1ユニットのグループホームです。入居されている方も職員も女性だけの施設です。民家改築型なので、昔の雰囲気を感じ、どこか懐かしさを感じる作りとなっています。ホーム内には昨年設置されたエレベーターの他に、階段もあり、自分で歩ける方は手すりを使い、1Fのリビングと2Fの居室を階段で行き来し、日常生活の中で自然と足、腰が衰えないようになっていきます。リビングには台所とのしきりがなく、おいしい料理の匂いや音を感じながら、一人一人のできる力、状態に合わせた役割がもてるよう、職員と一緒に会話を楽しみながら食事の支度を行っています。又季節感を感じていただけるよう外出行事を充実させ、ご家族様、他のグループホームの方と合同で温泉、ボウリング、リング狩りを楽しんでいます。お誕生日には個別外出を行い、ご家族様もお誘いし、本人の行きたい場所、食べたい物等の要望に応じています。生活の中に役割と楽しみが持てるよう支援に力を入れています。身体拘束

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームすずらんの家は、サービスの質に関する要素の向上に努めているホームです。本人に関するサービスの質では、『やさしさ・気配り・よりそい』という理念の実践により利用者個々人の周辺症状を緩和し、安らかさや心地よい気分になって頂く事を大切にしています。職員は利用者とのふれ合いを貴重なケアとしています。自己決定や自由、力の発揮、達成感のある暮らしが実現しているのも、何気ない会話からや様子を推察する事によって導き出されています。家族に関するサービスの質では、本人の誕生日外出を共に過ごす交流や協働により、家族が本人と心温まる時間を過ごすためのサポートを行っています。地域交流については、隣接する町内の会館での活動(お料理教室、餅つき、カラオケ同行会)に利用者が参加をしたり、同業者と連携した外出行事が多彩です。また、認知症ケア向上への貢献では、認知症フレンドシップ主催の札幌から東京までたすきを繋ぐマラソンに利用者も参加をして市役所まで歩きました。運営者の事業への姿勢と管理者のマネジメント力、職員スキルが包括され、家族や地域等の協働によって、利用者の豊かな生活を支えているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の常に目の届くところに掲示し、職員間で理念を共有し、実践につなげている。	住み慣れた地域で安心した暮らしを支えるための、ホーム独自の理念を標榜しています。「やさしさ・気配り・よりそい」の基本理念は、職員全員が共有し合い、サービス提供場面で実践されています。来年度、地域に理念を知って頂く取り組みを計画しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事の参加で、盆踊り、花植、ゴミ拾い、老人クラブのカラオケの参加、料理教室、餅つき、ホームでの行事にも地域の方が参加されるなど、地域との交流にも力を入れている。	近所を散歩しながら住民の方と会話を楽しんだり、山菜などを「お裾わけ」し合う交流があります。町内会の料理会では主婦の方々と一緒に調理をしたり、餅つき行事の参加では幼子ともふれ合っています。利用者を交えた他ホームとのつき合いも盛んで、ボランティアの受け入れも充実しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事の参加、ボランティアの受け入れ、ホームでの行事の呼びかけの他に、回覧板にお便りの掲載を行い、地域にむけ、認知症への理解、支援の方法等を発信している。地元学生の研修の受け入れも毎年行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、入居者状況、取り組み、ヒヤリハット報告等を行い、助言、アドバイスを頂きサービスの向上に繋げている。消防、看護部長の参加により、専門的な助言、アドバイスも頂いている。	すずらん便りで家族に会議をお知らせしたり、町内会の回覧板で、地域の皆さまに会議参加の呼びかけも行っています。今後は会議を通じホーム資源を還元しながら町内会との協力関係を深めていきたいとの考えを示しています。些細な事柄もヒヤリハットに挙げ、会議で報告して意見を仰いでおり、透明性を持った会議運営に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括会議、推進会議、メールでの情報交換を行い、協力関係を築いている。	市が主催する定例会議に参加して、担当者より市の高齢福祉推進に係る取り組みや今後の方向性などを伺い、ホームの運営に活かしています。また、恵庭市のグループホーム連絡会の活動も活発であり、ホームや利用者、家族のサービス向上に向け、共に連携しながら協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、職員は身体拘束の具体的な行為を理解し、毎日のミーティングの中で、現在行っているケアが拘束に当たるか確認を行い、日々のケアに取り組んでいる。日中の施錠は行っていない。マニュアルの作成も行っている。	ホーム独自の身体拘束廃止のマニュアルを整備しています。これらに係る外部研修に職員も受講しており、研修報告書作成により学びを重ね、職員に正しく理解してもらうことを大切にしています。いつでも自由に移動できるように傍に歩行器を置いたり、テレビを観たい様子が窺われた時は本人の意思を確認するなど、適切な見守りや声かけをしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加は積極的に行い、会議、記録の観覧などで報告し職員に周知している。カンファレンス、申し送りでもケアのあり方を話し合い、虐待が見過ごされないよう注意を払い防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加、マニュアルの作成を行い、職員に伝えている。運営推進会議で、市職員、包括と話す機会はあるが、現在は該当に当たる入居者がいないため活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時、改訂時には入居者様、ご家族様に十分な説明を行い、理解、納得をはかっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時又は介護計画書の説明時に、入居者様、ご家族様の要望、意見を聞く機会を設け、運営に反映させている。ご意見箱の設置も行っている。	利用者からは、家事仕事などに関する要望が出されています。意見を伝えることが困難な方の場合は、表情を見逃さずに不満等を把握して、サービスに活かすようにしています。家族からは、現在の運営やケアサービスを継続してほしい、との意見が多く出されています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、申し送り等を通じて職員の提案、意見を聞く機会を設け、運営に反映している。会議は職員が持ち回りで司会を務め、発言しやすい雰囲気を作っている。	職員が各係を分担しており、積極的にホームの運営に関わっています。職員会議の議題に挙げてほしい内容なども職員が聴き取りをしたり、司会や書記、議事録も担っています。ホーム全体で話しやすい雰囲気を作り上げ、カンファレンス等でも率直な意見交換を行い、より良いサービスに反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力、実績、勤務状態の把握に努め、各諸手当の支給、研修の充実、発言しやすい職場作りなど、やりがいや向上心を持って働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加している又研修で得た知識は、他職員に周知できるよう、記録の観覧の他に、会議での報告も併せて行っている。又働きながらトレーニング出来るように毎日のミーティングの中で、疑問点や困っていること等話し合い、日々のケアを実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回、市内のネットワーク会議、親睦会の参加などで情報の交換は行っている又ネットワーク主催の研修会の参加、事例検討会、勉強会、合同でボーリング大会、リンゴ狩り、温泉行事などを行い、同業者との交流を図りサービス向上の取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前にご本人様と面談を行い、困りごと、要望などに耳を傾ける機会を設け、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前に、ご家族様とも面談を行い、困りごと、要望に耳を傾け関係作りを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で本人、ご家族様の必要とされている支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、調理、掃除、洗濯等の家事等のお手伝いを職員と一緒にし、感謝の言葉やねぎらいの言葉を伝え、関係性を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、月1回のお便りで、近況の報告、ご家族様の要望を聞きながら情報の交換を行っている。お誕生日にはご家族様と個別の外出を行い、行事の参加の呼びかけ等行いながら共に支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた美容室、老人会参加等の支援を行い、関係が途切れないよう努めている。	利用者の一時帰宅を職員が同行してサポートしています。何年かぶりに自宅に戻り、家族と集いながら墓参や外泊をしたり、本人の誕生日に孫を交えた自宅での会食なども家族と協力しながら支援しています。利用者の馴染みの美容室に運営者が一緒に整髪に行く事もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、座席配置の工夫、時には職員が間に入り、一人一人が孤立せず、支えあえるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にも定期的にご家族様がボランティアとして来ていただいている。終了後入院されている方のお見舞い、他施設入所の方には担当のケアマネより状況を聞く等し、相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中の会話、表情、行動、様子等から本人の思い、暮らしの意向の把握に努めている。困難な方には表情、声のトーン、生活歴などで検討を行っている	利用者に寄り添い、一緒に話をし、その中から出てきた言葉や様子から、本人の背景にある想いについても推察するようにしています。情報は、朝と夕の申し送りで報告し、適宜記録をして、ケアプランに繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後のご家族様からの情報提供、日常の行動パターン、会話からなじみの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者様の日々の様子観察、毎日のミーティング、カンファレンスの話し合いを重ねながら、心身状態、有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンス会議で実践してきたケアの評価、見直し、現在の課題等職員全員で話し合いを行い、必要があれば主治医、訪看にも相談を行っている。家族の意向も踏まえ、現状に即した介護計画を作成している。	利用者担当制を取り、担当スタッフを中心となってアセスメント、モニタリングを行い、全職員が参加するカンファレンスで意見討議の後、ベースとなる計画を作成しています。会議ではヒヤリハット報告による状態像の確認が行われ、多角的視点による見直しを恒常的に行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいたケアの実践、結果、気づき、工夫を個別記録に記入し、毎日のミーティング、カンファレンスの中で情報の共有を行って、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	レンタルサービス、ご主人のお見舞い、入居者様、ご家族様の希望する病院受診など柔軟な取り組みが出来るよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人クラブ、町内会の行事の参加ご家族様との外出、福祉用具のレンタル、購入等を活用しながら心身の力を発揮できるよう支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の支援を行っている又状態に合わせた病院受診を行い、主治医には詳しい情報を伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族の希望する医療機関での受診が可能であり、通院はホーム対応を基本としています。訪問歯科の往診体制があり、訪問看護師による指導やアドバイスは24時間対応の態勢を整えています。受診後は受診ノート、経過記録に記し、適宜、家族に報告を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による健康状態のチェック又、24時間対応による相談、助言を受け、適切な受診、看護を受けれるよう支援している。週1回の来訪時には、1週間の様子や受診の結果報告など詳しく報告している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療との連携を図り、入院した場合は早期に退院できるよう情報の交換、相談に努めている。又受診時には状態の報告、家族の意向など伝え、時には家族同行で受診を行い、関係作りに努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については入居時に説明を行い、同意を得ている。終末期に関しては具体的な指針を作りあげ、本人、家族と話し合う予定	「医療連携加算・利用者が重度化した場合・看取りの対応に関する指針」を家族に説明し、同意書を得ています。看取り支援態勢に向け、職員はターミナルケア研修の受講を進めています。今後は、往診体制を整えるべく、医療機関と調整を図る予定となっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの作成を行い、救命講習会は職員全員受けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練では、夜間想定、地震想定訓練を行っている。災害に備えて、玄関、外の物置に2日分ほどの食料と水を備えている。近隣の方の協力は得ているが地域全体とまでの協力体制は整っていない	日中・夜間想定下で火災、地震の避難訓練を消防署と地域住民の協力を得て実施しています。地域と相互協力し合う防災態勢を今後の課題としています。スプリンクラーを設置し、災害備蓄品を確保しています。市消防に運営推進会議への出席を請い、火災予防に係る指導や助言を得ています。	利用者の方々が様々な場所に居る事なども想定し(浴室・トイレ・庭・2階など)、迅速な避難誘導方法の習得や訓練について、また、停電時における対応策について、検討を期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの前、脱衣所の前にはカーテンを使用しプライバシーに配慮している。又一人一人の人格を尊重した言葉掛けを心がけている。	水分を提供する時など、「温かいもの、冷たい飲み物どちらがよろしいですか」と、相手を尊重する姿勢を保持しています。心温まる言葉遣いや接遇により、家事を自主的に担う利用者も多く、本人の尊厳を大切に支援に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で自己決定ができるよう、思いや、希望の確認を行いながら働きかけを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく、一人一人のペース、希望を大切に支援を行っている。散歩、ドライブ、お茶のみ等又はゲーム、体操等			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣介助の時には、本人の好きな衣服を選んで貰い、化粧が好きな入居者様には、本人の希望を聞き、チーク、口紅等購入している。」			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の出来る力を見極めながら、調理、茶碗洗い、後かたづけを職員と一緒にやっている。メニューは入居者様の意向を取り入れ、季節感が感じられるメニューも工夫しています。又希望があれば臨機応変に対応している。	献立は運営者が考案し、お雛様の節句にはちらし寿司に甘酒も添えて、また、その時々を利用者の食べたい物を盛り込んで提供しています。行事食も多彩で、クリスマス会は生寿司、ケンタッキー、チョコレートケーキ、誕生日には職員や家族と外食を楽しんでいます。日帰り温泉ではマグロの兜焼きも堪能しています。利用者は、調理や下拵え、食器洗いなど、積極的に携わっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は1日を通じて把握できるよう記録に記入している。一人一人の状態に応じ、とろみの加減、食事形態の工夫、嗜好を配慮し提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、状態に合わせて介助を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンの確認を行い、一人一人のパターンに合わせた声掛け、介助を行い自立にむけた支援を行っている。	排泄チェックは自立の方以外の介助が必要とされる方のみ記載しています。誘導により失禁するケースが減少し、リハビリパンツから布パンツに移行した利用者がいます。トイレの声かけを「おトイレに行きたい方はどうぞ」と、全員にお誘いもして、特別な視線で他者から見られないようにするなどの配慮をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表の活用で排便の量、時間、状態の確認を毎日行っている。又水分量、食事摂取量、運動、歩行の確認、便秘気味の入居者様にはヨーグルトの提供、訪問看護師の来訪時にも報告を行っている。職員は便秘の弊害を理解している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午後より行っている。本人の希望を確認しタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。職員数の関係により夕食後の入浴は行えていない。	入浴を拒否する利用者がいない状況です。入浴のタイミングは、自分が入りたいときに入って頂くようにしており、最低週2回、全員が入っています。仲の良い利用者同士が連れだって入浴する事もあります。ゆったりと湯船に浸かって頂き、寛いだ雰囲気大切にしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時々状況による活動、休憩時間の配慮し一人一人の習慣、状態に合わせた就寝時間等、良眠を得られるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者、写真入りの個別の服薬情報を作成し、目的、副作用が一目でわかるよう工夫を行っている又薬の変更があった場合は、連絡ノートに記入、送りなどで報告し職員に周知を行い、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや楽しみごとのある生活を支援するため、雑巾縫い、編み物、塗り絵、カラオケ又一人一人の力を活かした家事のお手伝いなど役割や楽しみごとのある生活の支援を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添った外出が行えるよう支援に努めている。お誕生日外出では本人の行きたい場所、食べたい物、家族様の参加も呼びかけ、希望に添えるよう支援している。季節感が感じられるよう散歩、外気浴、温泉、花見、紅葉狩り、時にはバスを借りて、遠出を楽しんでいる。	全員で支笏湖や大滝村、栗山公園、初詣、日帰り温泉に出かけています。「お誕生日外出」と称した個別支援も大変充実しており、利用者と職員、そして家族も同行して、ホテル、焼き肉店、寿司店と銭湯、郷土資料館とドライブなど本人の行きたい場所に出かけています。他のグループホームと一緒にリング狩りやボーリングも楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を管理されている方は少ないですが、外出時、買い物時などお金の所持、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている入居者様には、希望があれば、家族、知人への連絡介助を行っている。文字を書くのが困難になってきている入居者様が多いため手紙等の支援は現在行っていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家型を改築した作りのため、生活の場は懐かしい作りになっています。台所とリビングの境がないため、料理の好きな方は、自然に台所に来て、調理、茶碗洗いを行うのが日常の光景となっています。ベランダには大きめのサンルームがあり窓からは四季の変化が感じ取れます。	3階建ての建物の2、3階部分がホームになっており、昇降機やエレベーターが設置されています。談話室（居間）と台所が一体となった造りでサンルームもあり明るさがあります。対面式を取らないキッチンには、出入り間口が広く行き来し易い構造でもあり、利用者が調理や食器洗いで力を発揮する空間となっています。洗面台には、個人用のタオルを其々備えています。稚拙な飾り付けもなく、家庭的で落ち着いた雰囲気のある共用空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	可動式のテーブル、椅子を置いてあり、すきな場所に移動でき、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の使い慣れたもの、馴染みのもの、好きなものをお部屋に置き、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室入口には、自室と分かる飾り付けがされ、入居時に家族や本人の希望の家具や調度品を持ち込んでもらっています。家族の写真を置いたり、飾り付けなども自由にしています。利用者の個性に合わせた設えを支援し、混乱なく安心して過ごせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来ること、わかることが活かせるように声掛け、誘導、表示を行い、自立した生活が送れるよう工夫している。		